

# 「TACSしべちゃだより」 ～半年が過ぎ

釧路営業所 浅沼 康之

平素より弊社商品をご用命賜りありがとうございます。標茶町農業協同組合、標茶町、雪印種苗(株)が出資した(株)TACSしべちゃは平成27年4月3日から搾乳を開始し、半年が経過しました。良質自給飼料を増産し、生乳生産コストを下げる取組みが始まりました。今回は(株)TACSしべちゃの半年の経過を主に草地関係の取組みをご紹介します。

雑草50%裸地20%という厳しい結果でした。

収量調査を平成27年6月11日に調査した結果、圃場ごとにばらつきはあるものの、面積加重平均で、約1.4t/10aと非常に厳しい結果となり、植生改善も必要ですが、反収を上げなければ自給飼料が不足する実態が浮き彫りになりました。

## ①植生調査・収量調査を実施し自給飼料畑の現状を知る。

(株)TACSしべちゃが設立され、搾乳を開始する前に取り組んだのが植生調査です。草地ごとに優占している草種が何であるか、収量はどのくらい期待できるかを調査致しました。(図1)

植生調査結果から見てきた状況は、牧草が約30%

## ②(株)TACSの収穫体系について

(株)TACSしべちゃの立上げの際に、収穫体系についてどのように進めるべきか議論致しました。良質な自給飼料を確保するためには、適期での収穫が不可欠です。各種補助金を活用し、収穫に必要な機械等を購入することも検討しましたが、昨今の情勢からダンプ等の外注、オペレーターの確保が困難な状況もあり、JAしべちゃが運営している営農サポートセンターのコン

## TACSしべちゃの取組み

### 牧草地の植生調査結果

(平成27年5月18日調査)

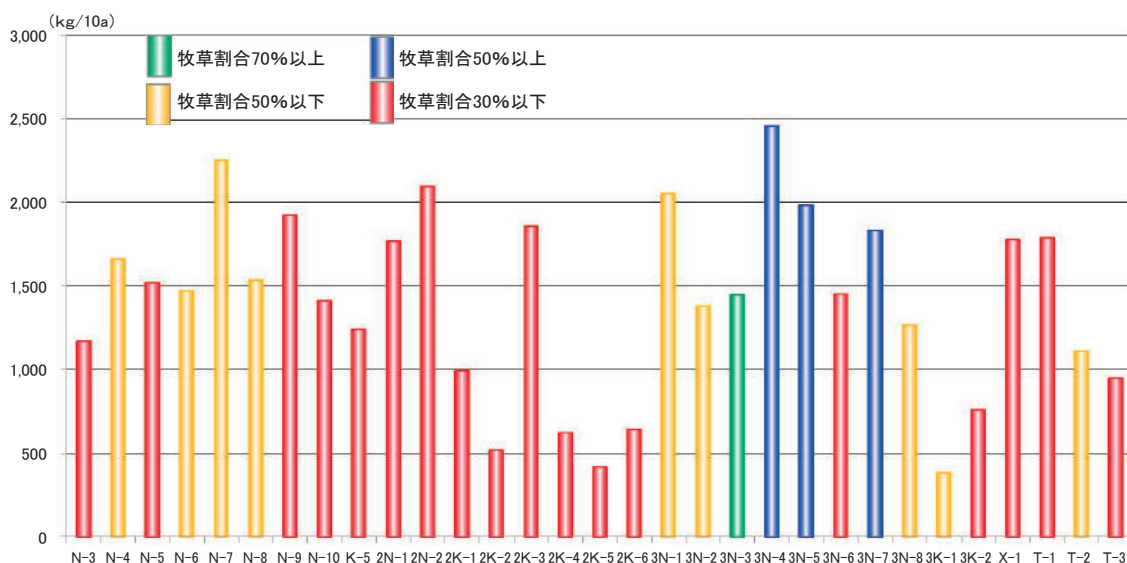


図1

トラクターを利用することを軸に検討致しました。

しかしながら、コントラクターの利用は、6月下旬の収穫適期に集中するため、利用が少ない6月上～中旬が収穫適期となる牧草を主体として、具体的には、オーチャードグラス・ペレニアルライグラスといった従来道東地域では利用が少ない草種に変えていくことと致しました。チモシーの収穫適期とラップしないことと、自走ハーベスターの年あたりの稼働時間を増やす効果が期待でき、長い目で見ると機械の償却に有利に働くのではないかと期待しております。

### ③ 本年取組んだこと

前述のとおり、(株)TACSしべちャの草地は、収量が低い圃場が多く植生改善のスピードを上げることが重要な課題です。従来の草地更新を進めるだけでは、総面積約200haを仮に年20haずつ更新したとしても、10年ではかかってしまいます。なおかつ10年経過すると草地の劣化が進むことを考えると、上述した方法をとったとしても、サイレージの品質改善への反映には時間がかかりすぎると考えました。

#### 1) 追播による草地のレベルアップ

そこで、今後1～2年以内に更新する草地以外の圃場にペレニアルライグラスとオーチャードグラスを追播することを計画しました。ペレニアルライグラスは発芽、初期生育が良好で、糖含量の高い牧草です。イネ科雑草主体の圃場に、オーチャードグラスの収量とペレニアルライグラスの糖を加えることにより、サイレージの栄養価・発酵品質の向上を目指します。(株)TACSしべちャではコントラクターを利用し、大型バンカーにサイレージを貯蔵していきます。折角更新した草地の牧草がどこに保管されているかわからない状況になるケースも想定され、全圃場を早期に追播することで、圃場ごとの牧草のバラツキを少しでも抑え、草地更新した粗飼料が経営に寄与できるよう工夫しました。

平成27年は、2番草の収穫(8/9)後、シードマチックを利用して、8/12～8/15に30haの追播を実施しました。これまで平成26年にも30haの追播を実施しております。

#### 2) アッパーロータリーを活用した簡易更新の実施

(株)TACSしべちャの草地は更新後年月の長い草地が多く、表層にルートマット(根の層)が厚い圃場も多

く見受けられました。そこで、そのルートマットを表層で碎き、肥沃度の高い部分を活用できるアッパーロータリーによる簡易更新を実施致しました。

平成27年は難防除対策事業も活用し、20ha実施しました。作業工程は以下の通りです。

- ① 除草剤散布：7/17
- ② 2回目の除草剤散布：8/3
- ③ 古草の除去：8/9 (枯れた草をバタフライで刈り取り、自走ハーベスターで切断し圃場の上に散らしました)
- ④ 土改剤(苦土炭カル)散布：8/16
- ⑤ サブソイラーによる心土破碎：8/17
- ⑥ スラリー散布：8/17
- ⑦ アッパーロータリーによる碎土・鎮圧・播種：8/21 (写真1)
- ⑧ 施肥：鎮圧：8/22



写真1

### ④ 自給飼料にかける思い

配合飼料高騰を受け、「自給飼料の良質化」が重要と酪農家及び関係機関の認識は共有化されて参りました。しかしまだまだ「牧草が良くなった」「コストが下がった」等の話はなかなか聞こえて参りません。草地更新等は費用が掛かることですし、オーチャードは3回刈る必要があるのも、労力・費用が掛かるので二の足を踏む状況もあろうかと思えます。プレミアム商品券のように「必ず儲かるんだ」とわかれば投資する人は殺到します。(株)TACSしべちャが植生改善に取り組むことは「必ず儲かるんですよ」ということを広く皆様にお伝えすることが出来る日を目指し、関係機関の協力を仰ぎながら取組みを進めていきたいと考えます。